

解答用紙2

受験番号

名前

A. (貞観の噴火)

貞観の噴火は、平安時代初期の西暦864年から866年にかけて発生した有史以来では最大級の噴火である。山頂から北西方向の斜面で発生した大規模な割れ目噴火で大量の溶岩を噴出した。溶岩は割の海(せのうみ)と呼ばれた湖に流れ込んで大半を埋めた。大きく形を変え残った湖が精進湖と西湖である。また、本栖湖の形も小さくした。溶岩流の上に1100年を経て再生した森林地帯が青木ヶ原樹海である。

B. (噴火への取組)

2001年より国の防災関係機関や富士山周辺の地方自治体により「富士山火山防災協議会」を組織している。同協議会では、富士山火山防災マップを作成し、周辺自治体で全戸配布するなどしている。火山防災マップには、富士山が活火山であることが明記され、溶岩流・火砕流・融雪型火山泥流、それぞれが届く範囲が地図上に示されており、周辺地域住民に噴火の際の適切な避難を呼び掛けている。

C. (世界遺産センター)

富士山の世界遺産センターは、富士山の包括的な保存管理や、自然、歴史、文化、周辺観光等の情報提供を行うために、山梨・静岡両県で一つずつ設置される計画である。山梨県では、富士河口湖町の富士ビジターセンター南側に建設され2016年度に開館予定である。静岡県では、富士宮市の富士山本宮浅間大社に近接する場所に2016年度中の開館を目指し建築家・坂茂氏の設計により建設される。

D. (周辺の洞窟)

富士山周辺には数多くの溶岩洞窟があり、北西方面の富岳風穴・鳴沢氷穴・西湖蝙蝠穴、南東方面の駒門風穴など見学もできる洞窟もある。これらは国の天然記念物に指定されている。また、溶岩樹型は、溶岩流が通った際の本々のあとで、人間の内臓のように見えることから「胎内」と呼ばれているものもあり、中でも船津胎内樹型・吉田胎内樹型は、世界文化遺産の構成資産になっている。

E. (人穴富士講遺跡)

人穴洞窟は富士山の西麓に位置し、長谷川角行が修業を行い入滅したとされることで富士講の聖地となった洞窟である。周辺には富士講信者が作った232基の碑塔群が残されており人穴富士講遺跡を形成している。鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」に、鎌倉幕府2代将軍源頼家の命令により、洞内を探検した武士が霊的な体験をしたことが記されているなど古くから知られる場所であった。





